

情報モラルの問題に留意した指導

□指導のポイント□

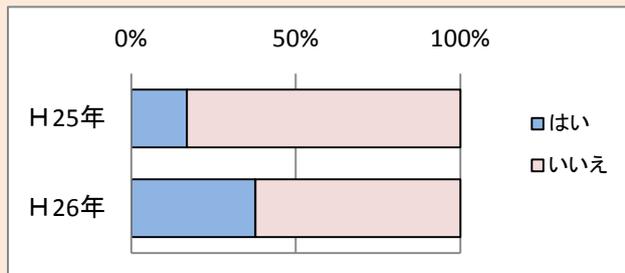
学校教育目標 夢大きく心豊かな児童の育成

本校では「よりよい生き方を考える道徳教育の充実」を重点目標のひとつにかかげ、自己肯定感を高める取組みを充実させていくと同時に、道徳の時間を充実させ、道徳的価値の自覚を深めていくために教職員で研修を積み上げ、指導方法の工夫を図ってきている。

社会の情報化が進展し、コンピュータや携帯電話等が普及している。更に、多機能型携帯電話が急速に普及し、日常的に扱っている児童も多い。このような状況の中、情報モラルに関わる指導の重要性がさげばれている。本校においても情報モラルに関わる児童の実態に直面する中で、指導の実際を見直し、実践を行ってきた。

実態

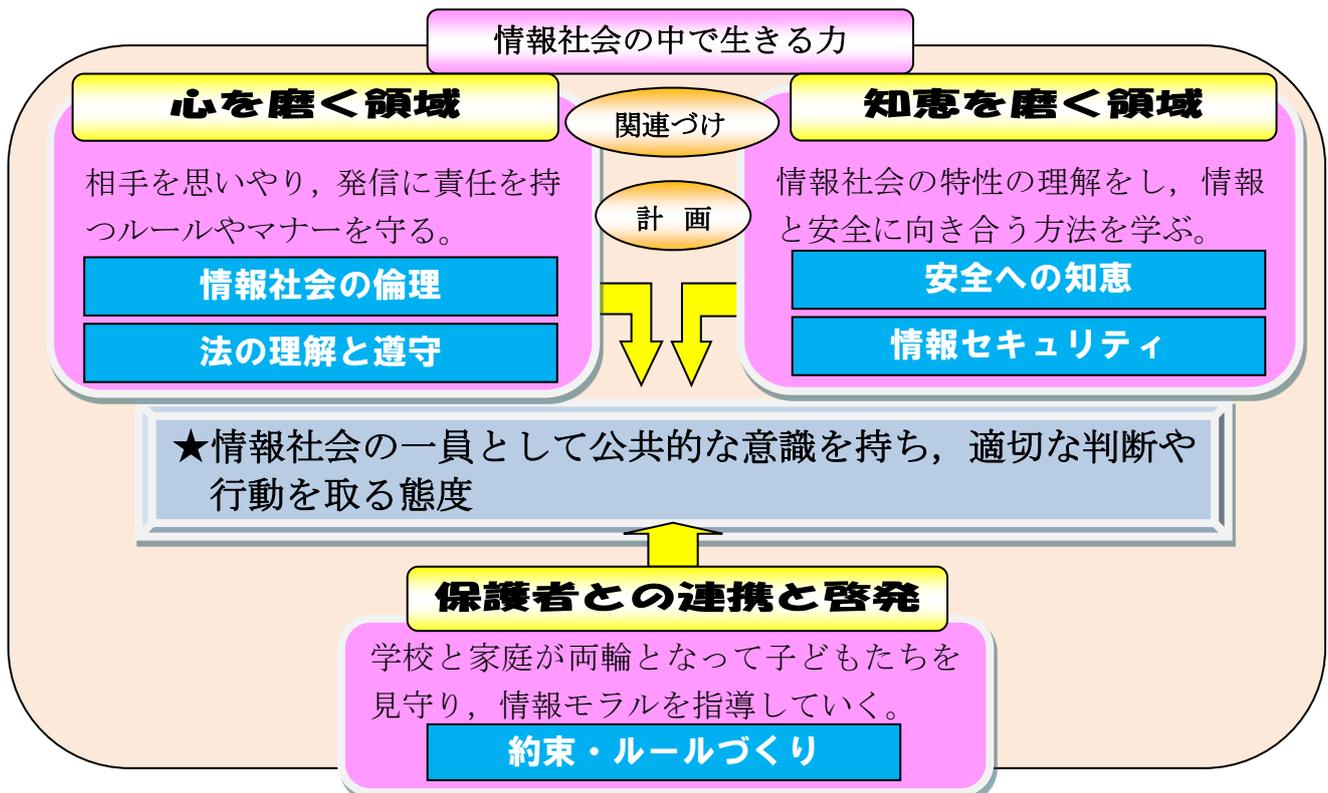
携帯の所持率アンケート（6年生）「自分専用の携帯電話を持っていますか」



携帯電話の所持率が非常に高くなっている。また、タブレット等を所持している児童もあり、ゲーム機等も含めるとほとんどの児童が何らかの通信手段を所持している実態である。また、ライン等SNSをめぐっての児童間のトラブルも起こり、児童の実態に即した指導が急務である。

情報モラル教育の構想

参考「情報モラルキックオフガイド」



□指導の計画□

心を磨く領域

道徳の時間

(資料名)

いつの間にか (自作資料)

主題名 節度を守る 1 - (1)

(ねらい)

携帯電話の使用の約束を次第に破っていく真樹の心情の変容を考えることを通して、自分の生活を振り返り、望ましい生活習慣を積極的に築くとともに、自らの節度を守り、節制に心掛けていく態度を養う。

(情報モラル教育の視点)

他人や社会への影響を考えて行動する。

(指導過程)

《導入》

携帯電話の機能について話し合う。

《展開前段》

資料「いつの間にか」を読んで話し合う。

○次第に約束を破っていく主人公の気持ちを考える。

○ケータイに悪口を書こうとする主人公の気持ちを考える。(情報機器に関わった発問)

◎「いつの間にか」と思いながら母親に今までの自分を話そうとする主人公の気持ちを考える。(節度のある生活を見つめ直していこうとする主人公の気持ち)

《展開後段》

「ちょっとぐらいいいか。」「今日ぐらい」と生活リズムをくずした経験とそんな時どうしたのかという経験を話し合う。

《終末》

「わたしたちの道徳P15」にこれからの自分を書き込む。

知恵を磨く領域

特別活動

(教材)

考えてみよう情報社会 (本校作成教材)

(ねらい)

メールやライン等のネットワークを使ってのコミュニケーションの在り方について、具体例をもとに考えさせ、ネットワーク社会を生きる一員としての自覚を高めていく。

(情報モラル教育の視点)

情報社会における自分の責任や義務について考え、行動する。

(指導過程)

「こんな時自分だったらどうする」という展開で、その根拠を話し合い、よりよい方法を話し合う

場面1 家族で食事中に携帯の着信がきた。

場面2 返信の内容でトラブルが起こった。

場面3 チェーンメールが届いた。

場面4 夜遅くなってもラインが楽しくてやめられない。等

具体的な対応の仕方を話し合うことで情報社会の中で自分が果たす役割を自覚していく。

《まとめ》

わたしたちの道徳P184, 185を読み、情報機器の使い方について考えたことを書く。

考えてみよう
情報社会

本郷小学校 六年生

<ケースF>

また 今日も
夜遅くまで続く

大切にしたいものは 何

相手の気持ち
心



本郷小学校PTA教育講演会

保護者との連携と啓発

「ケータイ安心安全講座」

- ◎携帯電話をめぐる具体的なトラブル事例
- ◎ネットワーク社会の闇の部分からどう子どもたちを守っていくか
- ◎家庭で情報社会にどう対応していくか
- ◎インターネットをめぐる様々な疑問について 等



□指導の実際□

指導力の向上

実態をふまえ、各教科科目の授業において、それぞれのねらいに即した学習活動のなかで、情報モラルを確実に身に付けさせる指導を行うことを目的に校内研修を行った。

情報モラルについて考えよう(HTK1)

本郷小学校

3.実践のために

学習指導要領 総則 情報モラルを身に付けさせることを明示

- 情報発信による他者や社会への影響について考えさせる学習活動
- ネットワーク上のルールやマナーを守ることを意味について考えさせる学習活動
- 情報には自他の権利があることを考えさせる学習活動
- 情報には誤ったものや危険なものがあることを考えさせる活動
- 健康を害するような行動について考えさせる学習活動

心を磨く領域

実践

知恵を磨く領域

《中心発問を効果的にする基本発問》

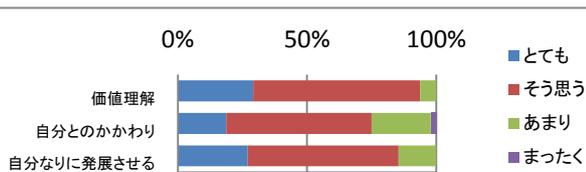
- T じっと携帯電話をにぎりしめている真樹は、何を考えているでしょう。
- C ひどいことされたんだからいい。
- C 書いた後で恵理にもつたわってしまうかもしれない。どうしよう。
- C わたしも同じようなことをされてしまうかもしれない。

《中心発問を効果的にする基本発問》

- T 「いつの間にか」と思いながら台所に行って母親にどんなことを話すだろう。
- C いつの間にか約束をやぶっていた。ごめんなさい。
- C 約束をやぶってしまった。ごめんなさい。
- C 気が付いていたけど。ついつい・・・これからはちゃんとする。



《授業後のアンケート結果とまとめ》



節度ある生活に関わっては身近な話題なので94%の児童が道徳的価値にかかわって理解を深めた。また、85%の児童が自分なりに発展させていきたいという思いを高めた。身近な情報機器を扱った素材がねらいに迫る上で効果的であったと考える。

《ラインをめぐるトラブル例について話し合う》

T 夜遅くまでつぶいたらどうする

C 確かになかなかやめられない

C ほおっておけばいい

C 既読無視になる

C はっきり伝える！



《チェーンメールについて対処法を話し合う》

経験した児童も多く、むやみに送らないという反応が多かった。しかし、巧妙なメールもあることやみんなが送り続けると膨大な数字になることを学び、正しく対処することを確認できた。



《まとめ》

- 便利であるが、適切に判断して対処していくことが必要である。
- 目の前にいなくても相手の気持ちを考えて行動することが大切。



公共的な意識・適切な判断や行動の態度

見守り

学校だよりに載せた保護者感想文の一部

子どもたちが携帯電話・スマートフォンを所持していく際、各家庭でどのような約束で、どのように対処していくことが必要なのか考えさせられました

保護者との連携と啓発